

# アジェンダ設定理論に基づくヘイトスピーチ言説の再考察 - 2ちゃんねる電子掲示板を事例に - Rethinking the hate speech based on agenda-setting - The case of 2 channel internet bulletin boards -

金善映<sup>1</sup>

Sunyoung KIM

<sup>1</sup>筑波大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程 Graduate School of Humanities and Social Sciences, Tsukuba University

**要旨**…本研究は、2ちゃんねる掲示板におけるアジェンダ設定機能がヘイトスピーチ言説に及ぼす影響を検討するものである。分析対象は2ちゃんねる掲示板の中で、ヘイトスピーチの論調が蔓延している掲示板としてよく知られている「東アジアnews+板」と「ハングル板」とし、分析手法としてはテキストマイニングを用いた。分析の結果、両板とも日韓中首脳会談に関する議論が重要なアジェンダとなることが明らかになった。また、両板の間でのアジェンダの違いでは、各板に特徴的な傾向がある可能性が示唆された。

**キーワード** 2ちゃんねる, アジェンダ設定, ヘイトスピーチ, テキストマイニング, 内容分析

## 1. はじめに

マスメディアは「今、何が問題なのか」という争点、いわゆるアジェンダを設定することについて強力な影響力をもつ。つまり、メディアの伝える情報は取捨選択の連続過程によって現実を再構成した恣意的なものである。そこで、「メディアで、ある争点やトピックが強調されればされるほど、その争点やトピックに対する人々の重要性の知覚も高まる」(竹下 1998: 4)と言える。

近年のメディア環境の変化により、インターネット掲示板やブログの持つアジェンダ設定の役割は徐々に大きくなっている(野村 2003; Yun & Sim 2003)。日本最大のコミュニティサイトであり、ネット右翼と呼ばれる人々がよく利用する2ちゃんねる掲示板もその中の一つである。まず2ちゃんねる掲示板における「東アジアnews+板」は、「キャップ<sup>1</sup>」を持つ記者のみがスレッドを立てるか否かを決定することができるため、彼らにより争点化されたアジェンダのみが、2ちゃんねるユーザーに重要なものとして認知されることになる。この時キャップを持つ記者が一種のアジェンダ設定を担う者となり得るため、マスメディアと同じように、ユーザーの注意を特定の争点や問題へと焦点化する可能性があるといえるだろう。その一方で、2ちゃんねるの「ハングル板」では、誰でもスレッドが立てられるため、ユーザーによるアジェンダ設定(collective agenda setting)が常に行われており、このシステムはキャップを持つ記者が一義的にアジェンダ設定していた「東アジアnews+板」のシステムとは異なる新しい仕組みと言える。この2つの板は、2ちゃんねるの中でも、ヘイトスピーチや嫌韓の論調がよく見受けられている板としてよく知られているが、キャップを持つ記者のみがスレッドを立てられる「東アジアnews+板」と誰もがスレッドを立てられる「ハングル板」の間で「物語」(コミュニケーションの素材;ネタ)には何らかの相違があることが予測される。

## 2. 研究目的と方法

### (1) 研究目的

本研究の目的は、各掲示板で取り上げられている「物語」がアジェンダ設定方式によってどのように変わるかを分析し、これがヘイトスピーチ現象にどのような影響を及ぼすかを検討することである。つまり、各掲示板で取り上げられている物語が、

---

<sup>1</sup> キャップとは、電子掲示板の個人を特定する機能の一つである。このキャップと呼ばれる権限を持った特定のユーザーを2ちゃんねる掲示板では記者と呼んでいる。



は見られなかったものである。図2を見てみると、「特別永住者」という語句を中心として、「在日朝鮮人」「外国人」「難民」「犯罪」「不法」など多くの語句との共起語が見られる。これらの共起語で示されたように、「特別永住者」という語句を使い、「在日朝鮮人」のイメージが表象されていたということがわかる。共起ネットワーク図から得られた特徴語を参照しながら、関連のある書き込みを確認してみた。以下の引用は関連書き込みの一例である。

日本に入国する外国人に指紋採取と顔写真の撮影に応じることを義務付ける改正出入国管理・難民認定法が施行されたが、在日韓国・朝鮮人ら特別永住者は対象外である。いかなる理由があつてこのように、在日韓国人だけを特別優遇するのか。(中略) 国際環境がテロゲリラとの闘いに協調する中、犯罪の温床ともいべき指紋押捺制度の特例は犯罪テロ国家と名指しされかねない悪法である。即刻、特例廃止を要望する。

マンセイ名無しさん：2015/11/02(月) ID:Goh\*\*\*\*\*

上述した書き込みから分かるように、在日韓国人だけは一般の外国人にはない「特別永住者資格」という特権を持っているという論点と共に、この資格こそ犯罪の温床となっているため、「特別永住者資格」の廃止を政府に強く求めているという論点を読み取れる。ここで指摘しておきたいのは、「在日特権」という「物語」であり、ヘイトスピーチを研究した複数の先行研究においても「在日特権」という「物語」は「在日特権を許さない市民の会」(以下、在特会)をはじめとする排外主義運動で最も重要な言説となってきた(安田 2012; 樋口 2014; 野間 2015; 山崎 2015)と報告している。「在特会」が主張する四つの在日特権の中で、本研究では「特別永住資格」に関する物語が目立っていた。

「特別永住権」とは、平成3年(1991年)11月1日に施行された、「日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法」により定められた在留の資格のことを言う。この「特別永住権」は戦前に日本人であったという「歴史的経緯」と、引き続き日本に住んでいるという「定住性」で認められた権利を言う(高 2015; 樋口 2014)。このような経緯を経て在日韓国人に「特別永住資格」が与えられたにもかかわらず、2ちゃんねる掲示板では在日韓国人が一般的な外国人の永住資格とは異なり優遇措置を受けているという物語が表れていた。特に、同じ2ちゃんねる掲示板としても、「東アジア news+板」では「特別永住」という物語が登場していないという点は注目すべきであろう。このように、在日韓国人が特別永住者として在日特権を享受しているといった物語が「ハングル板」のみ表れるのは、「ハングル板」におけるアジェンダ設定機能(agenda-setting function)がインターネットのユーザーにあるからではないかと、問い直してみる必要があるだろう。樋口(2014)の研究においても「在日特権」に関する言説は、新聞はもちろん右派論壇誌も含めて流通することはなく、インターネット上で作られ流通したものであると報告している。

以上の結果について総合的に考察してみると、「ハングル板」におけるアジェンダは、伝統的なメディアが果たしていたアジェンダ設定とは異なり、ユーザー同士がアジェンダを出し合い、意見の共有を行っているため、ある意味で「集団的アジェンダ設定」が起こっているという視座が得られるだろう。そしてこの板はマスメディアとは異なるアジェンダを設定するという側面を持つことから、反マスメディア・フレームが広範に形成されていることを強調しておきたい。というのも、これまで日本の新聞やテレビで在日問題を取り上げるといったことは一種のタブー視されてきた(丁 2013)からである。そういった視点から「在日特権」というアジェンダが頻繁に設定されるのは、既存のマスメディアに対する2ちゃんねるユーザーの拒絶感、対抗意識の現れであると解釈することも可能だろう。

その一方で、「東アジア news+板」の場合、メディアで生産された報道内容が主な物語として消費されており、それがヘイトスピーチ言説を生み出す土台となっている点も注目に値する。この板では信用できる情報源のキャップを持つ記者が情報をコントロールしているため、社会で話題になっているもの、節度を持って考えられるものを提示している。ゆえに、この板における物語はマスメディアに近いものと言えよう。ここで問わなければならない問題は、スレッドの記事に関する出所を見ると、主に右派と言われる産経新聞や朝鮮日報、レコードチャイナ3が多数を占めているために、これらの新聞の論調と近似性が見られたということである。今回首脳会談と関連し、保守右派系の新聞は日韓の外交上の軋轢と歴史認識をめぐる摩擦を煽るようなセンセーショナルな見出しの記事を多く掲載している傾向が見られた。一例として、レコードチャイナの「首脳会談開催も

<sup>2</sup> 「在特会」が問題としている「在日特権」とは、①特別永住資格、②朝鮮学校補助金交付、③生活保護優遇、④通名制度の四つである(安田 2012 : 194-196)。

<sup>3</sup> レコードチャイナ(2005年設立)は日本最大の中国情報サイトである。一見中華圏ニュースを伝えるように見えるが、実際は嫌韓を煽る記事が多数を占めている。

安倍首相とは食事をしない韓国大統領に『朴大統領よ、よくやった！』『安倍さんがかわいそうに思えてきた』—中国ネット」(2015年10月31日付)と題する記事が挙げられるだろう。何よりこれらの保守右派系の新聞で生産された記事は、受け手側のナショナリズムを刺激し、ヘイトスピーチ言説を煽る素材として用いられているということに注目すべきであろう。そういった観点から見ると、キャップを持った記者は2ちゃんねるユーザーの支配的な意見に迎合したアジェンダを設定し、ヘイトスピーチ言説を拡大再生産させているとも解釈できるだろう。

#### 4. 結論と今後の課題

分析の結果、両板とも日韓中首脳会談に関する議論が重要なアジェンダとなっていることが明らかになった。しかしながら両板のその他のアジェンダにおいては、それぞれの板で特徴的な傾向があることがわかった。具体的には「東アジア news+板」では産経新聞等の保守系の記事の本文をそのままコピーして貼り付けが多いという点で、保守右派系の新聞が設定するアジェンダとの類似が見受けられる。次に、「ハングル板」ではネット独自のアジェンダ化が顕著に現れていた。すなわち、マスメディアの設定する「主流アジェンダ」とは異なるトピックや争点に関心を持つとも解釈できる。

以上をまとめると、2ちゃんねる掲示板では、トピックや争点に対する顕出性(salience; 争点重要性)は、誰がスレッドを立てるかによって異なると言える。このように、両板の間に無視できない差異があるにもかかわらず、これまでの先行研究では、アジェンダ設定機能に焦点を当てヘイトスピーチ言説を究明しようとする試みが行われていなかった。そのため、本研究は、2ちゃんねる掲示板におけるアジェンダ設定機能がヘイトスピーチ言説に及ぼす影響を検討するにあたって有効な手がかりとなりうる。今後の課題として、分析対象を新聞社説まで拡張させ、アジェンダ設定機能についてより詳細に検討する必要がある。

#### 参考文献

- 1) 高史明 (2015) 『レイシズムを解剖する:在日コリアンへの偏見とインターネット』 勁草書房
- 2) 竹下俊郎(1998) 『メディアの議題設定機能—マスコミ効果研究における理論と実証』 学文社
- 3) 丁智恵 (2013) 「戦後日本のテレビ・ドキュメンタリーにおける在日コリアンの表象」 駐日大韓民国大使館主催 第33会韓国人研究者フォーラム講演資料(2013年12月7日) 1-7
- 4) Tae-Il Yun & Jae-Cheol Sim (2003) Agenda-Setting Effects of Controversial Websites *Korean journal of journalism & communication studies* 47 (6) 194-219
- 5) 野間易通 (2015) 『「在日特権」の虚構：ネット空間が生み出したヘイト・スピーチ』 河出書房新社
- 6) 野村一夫 (2003) 『インフォアーツ論：ネットワーク的知性とはなにか?』 洋泉社
- 7) 樋口直人 (2014) 『日本型排外主義：在特会・外国人参政権・東アジア地政学』 名古屋大学出版会
- 8) 安田浩一 (2012) 『ネットと愛国-在特会の「闇」を追い求めて』 講談社
- 9) 山崎望(編) (2015) 『奇妙なナショナリズムの時代：排外主義に抗して』 岩波書店